

高知県の経済概況 (令和7年11月分)

統計分析課

作成時点で公表されている県内経済に関係の深い指標を使い、下記8分野別に経済概況を取りまとめました。

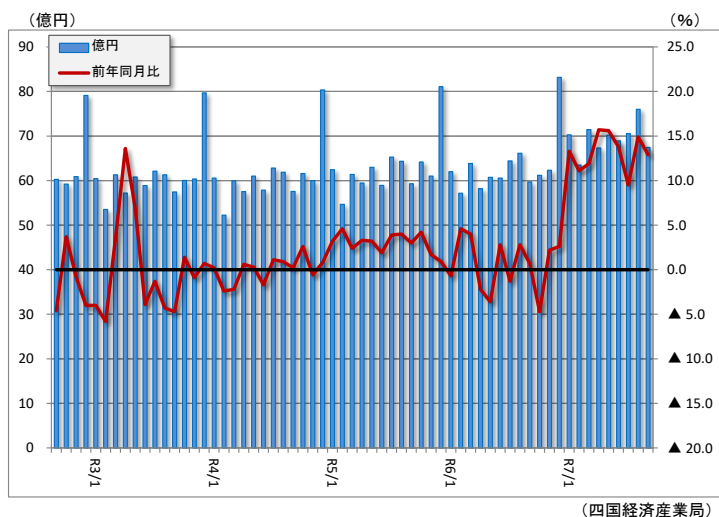
＜分野別の動向＞

項目	動向 ※特に断りのない限り、指標の増減は対前年同月比を指す	ページ
消費	・百貨店・スーパー販売額は、11ヵ月連続のプラスとなった。 ・コンビニエンスストア販売額は、7ヵ月連続のプラスとなった。	P.1
観光	・宿泊人数は、3ヵ月ぶりのプラスとなった。 ・観光施設入込客数は、2ヵ月連続のプラスとなった。	P.3
投資	・住宅投資は、2ヵ月ぶりのプラスとなった。 ・建築投資(住宅及び公務を除く)は、2ヵ月ぶりのプラスとなった。 ・公共投資は、2ヵ月連続のマイナスとなった。	P.4
生産	・製造業の生産は、前月比同水準となった。	P.5
雇用・所得	・雇用人員判断D.I.は、前回比▲2ポイントとなった。 ・有効求人数(原数値)は、28ヵ月連続のマイナスとなった。 ・有効求人倍率(季調値)は、1.09倍と前月を上回った。 ・現金給与総額指数(名目)は、3ヵ月連続のマイナスとなった。	P.6
物価	・総合、生鮮食品を除く総合、生鮮食品及びエネルギーを除く総合ともにプラスとなった。	P.10
金融	・国内銀行の県内貸出残高は、プラスとなった。 ・貸出約定平均金利は、前月差プラスとなった。	P.11
倒産	・企業倒産は、前月比で件数、負債総額ともに減少となった。	P.11

消費

- ・百貨店・スーパー販売額は、11か月連続のプラスとなった。
- ・コンビニエンスストア販売額は、7か月連続のプラスとなった。

1 百貨店・スーパー（9月）



結果概要

「衣料品」などが前年を下回ったものの、「飲食物品」、「その他の商品」などが前年を上回り、全体では11か月連続のプラスとなった。

<全体>

- ・67億4千万円。前年同月比+12.9%（35店舗）。
- ・11か月連続のプラス。

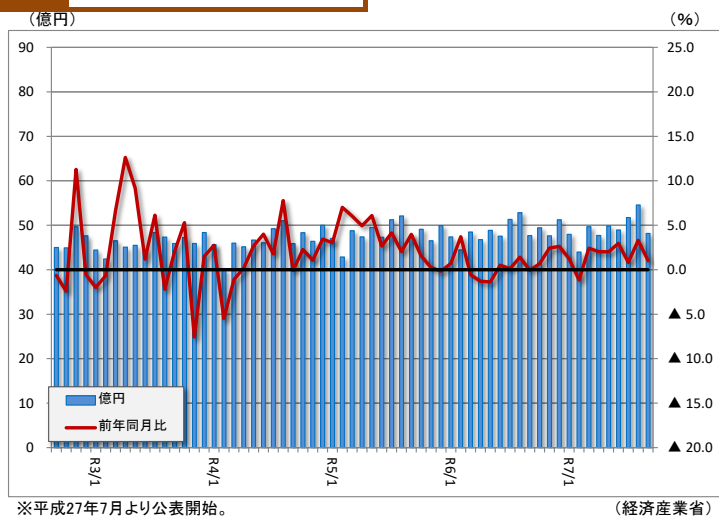
	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8	R7/9
販売額	67.3	70.2	68.9	70.5	76.0	67.4
前年同月比	15.7	15.6	13.8	9.5	14.9	12.9

※ R2年3月以降の前年同月比については、推計方法が変更されたため、実数で計算した値と異なる場合があります。

指標解説

- ・売場面積が1500m²以上の百貨店とスーパーの販売額。
- ・景気動向指数の「一致指数」の系列に採用されている。

2 コンビニエンスストア（9月）



結果概要

<全体>

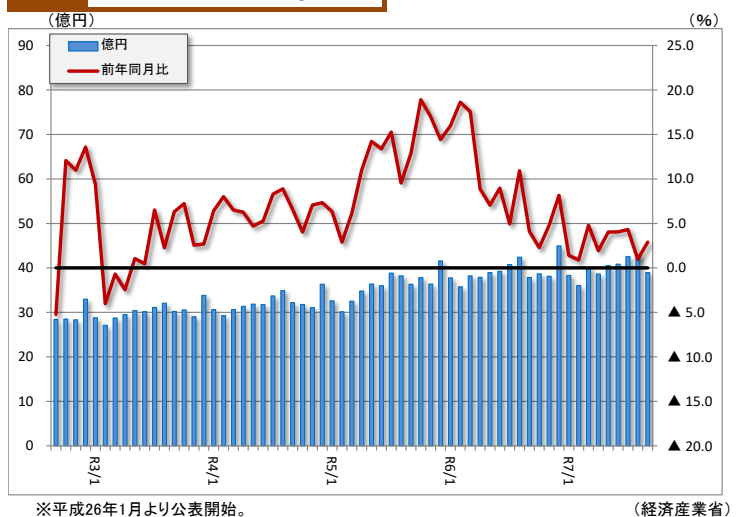
- ・48億2千万円。前年同月比+1.0%（283店舗）。
- ・7か月連続のプラス。

	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8	R7/9
販売額	47.7	49.8	49.0	51.7	54.6	48.2
前年同月比	2.0	2.0	3.0	0.8	3.3	1.0
店舗数	284	284	283	283	283	283
前年同月比	0.7	1.1	1.1	0.7	0.7	0.4

指標解説

- ・直営やフランチャイズ・チェーン店などの形態に関係なく、全国に500店舗以上を有するコンビニの県内販売額。

3 ドラッグストア（9月）



結果概要

<全体>

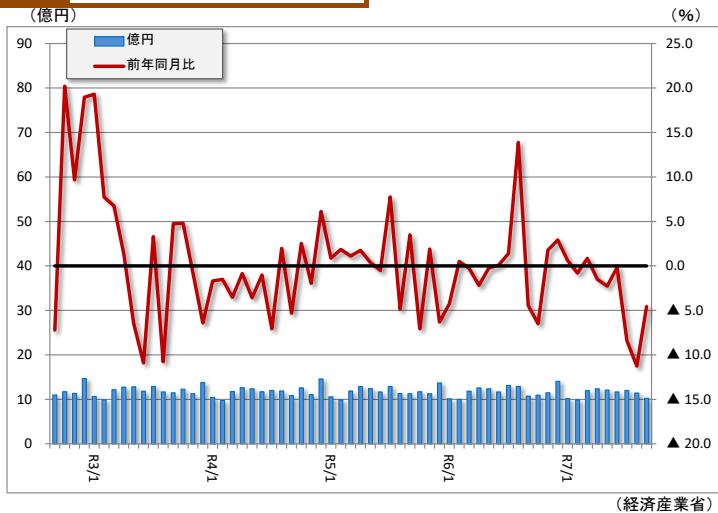
- ・38億9千万円。前年同月比+2.9%（109店舗）。
- ・53か月連続のプラス。

	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8	R7/9
販売額	38.6	40.5	40.8	42.5	42.8	38.9
前年同月比	1.9	4.0	4.1	4.3	1.0	2.9
店舗数	108	108	108	108	108	109
前年同月比	3.8	3.8	4.9	4.9	4.9	5.8

指標解説

- ・全国で50店舗以上有するもしくは販売額が100億円以上のドラッグストアの県内販売額。

4 ホームセンター（9月）



結果概要

<全体>

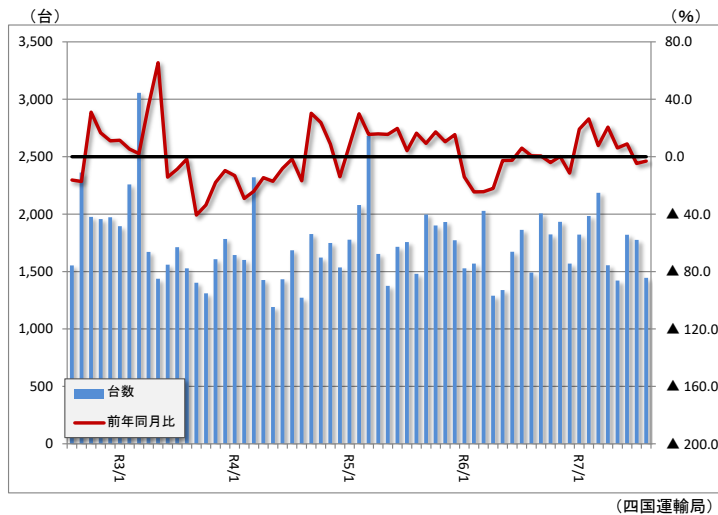
- ・10億3千万円。前年同月比▲4.6% (41店舗)。
- ・6か月連続のマイナス。

	(億円・店・%)					
	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8	R7/9
販売額	12.4	12.1	11.7	12.0	11.4	10.3
前年同月比	▲ 1.5	▲ 2.3	▲ 0.2	▲ 8.4	▲ 11.3	▲ 4.6
店舗数	41	41	41	41	41	41
前年同月比	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

指標解説

・全国で10店舗以上有するもしくは販売額が200億円以上のホームセンターの県内販売額。

5 新車登録・届出台数（8月）



結果概要

登録車は2か月連続のマイナスとなり、軽乗用車は2か月ぶりのプラスとなった。

<全体>

- ・1,446台 (普通458、小型276、軽712)。
- ・前年同月比▲3.0%。
- ・2か月連続のマイナス。

<車種別>

- ・登録車：▲13.5% (2か月連続のマイナス)
- ・軽乗用車：+10.9% (2か月ぶりのプラス)

	R7/3	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8
新車登録・届出	2,185	1,555	1,421	1,821	1,775	1,446
前年同月比	7.7	20.6	6.1	8.9	▲ 4.7	▲ 3.0

※速報値

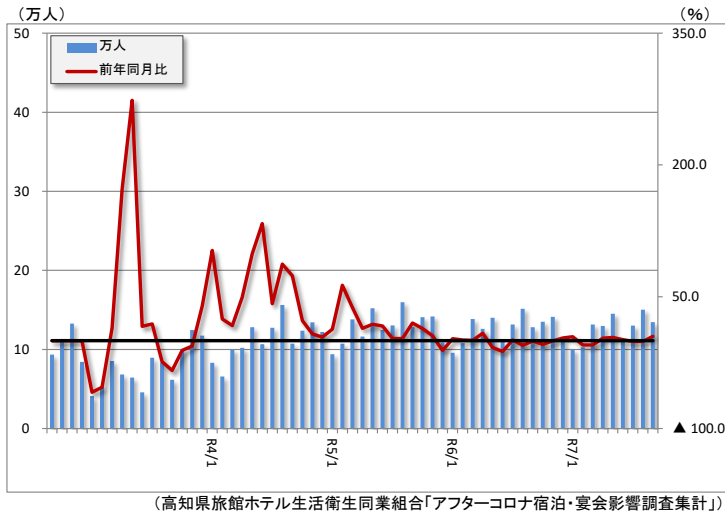
指標解説

- ・普通乗用車 (3ナンバー)、小型乗用車 (5、7ナンバー) の登録台数と軽乗用車の届出台数を合計したもの。
- ・景気の悪化による、個人消費の落ち込みや消費マインドの委縮は高額商品である登録車 (乗用車) の販売台数に反映される傾向がある。
- ・景気動向指数の「先行指標」の系列に採用されることが多い。

観 光

- ・宿泊人数は、3ヵ月ぶりのプラスとなった。
- ・観光施設入込客数は、2ヵ月連続のプラスとなった。

1 宿泊人数（9月）



結果概要

<全体>

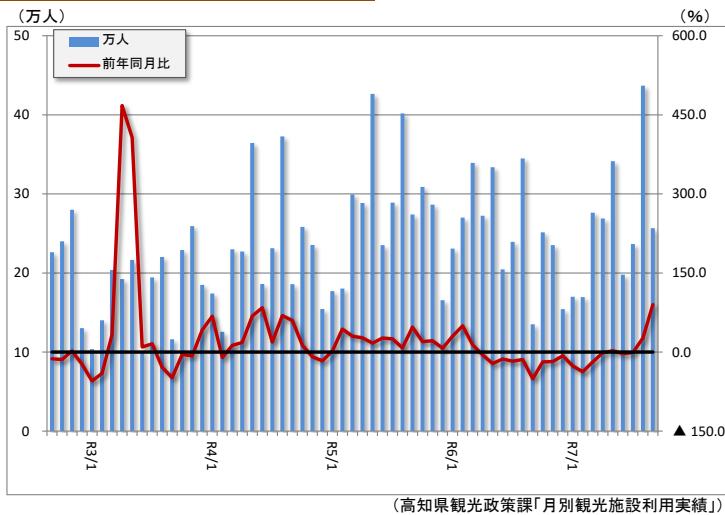
- ・13万4千人。前年同月比+5.0%。
- ・3ヵ月ぶりのプラス。

	(万人・%)					
	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8	R7/9
宿泊人数	13.0	14.5	11.1	13.0	15.0	13.4
前年同月比	2.8	3.6	1.2	▲1.0	▲0.8	5.0

指標解説

組合に加盟する旅館とホテルのうち、約55の施設について利用状況を調査。

2 主要観光施設入込客数（9月）



結果概要

<全体>

- ・25万7千人。前年同月比+9.1%。
- ・2ヵ月連続のプラス。

	(万人・%)					
	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8	R7/9
入込客数	26.9	34.1	19.8	23.7	43.7	25.7
前年同月比	▲1.2	2.3	▲3.2	▲1.2	26.7	9.1

<参考> 県外観光客入込数(観光政策課)

	(万人)					
	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
県外客数	438.8	266.7	267.2	370.7	472.2	445.4

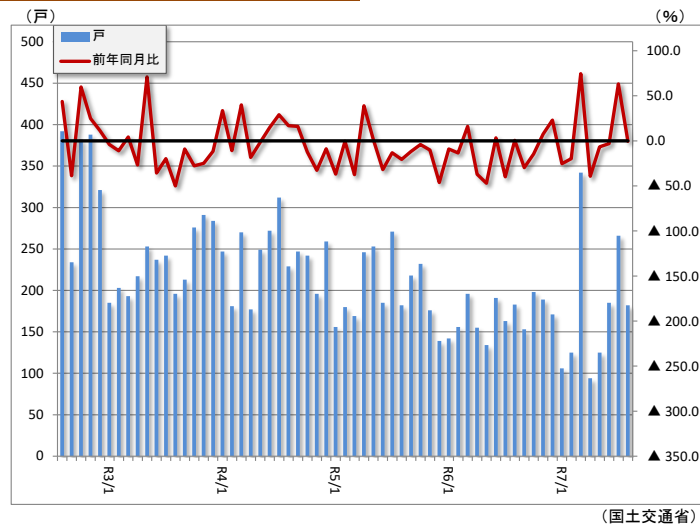
指標解説

- ・県内主要観光施設の利用者数(64施設)。
- <参考> 高知県における博覧会、キャンペーン等
- ・観光キャンペーン
 - ☆「どっぷり高知旅」R6/4～R10/3
- ・観光博覧会
 - ☆「牧野博士の新休日～らんまんの舞台・高知～」R5/3～R6/3
- ・リョーマの休日～人熱々料理～
 - ☆「あなたの新休日 高知の味曜日」R4/1～R5/3

投資

- ・住宅投資は、2ヵ月ぶりのマイナスとなった。
- ・建築投資(住宅及び公務を除く)は、2ヵ月ぶりのプラスとなった。
- ・公共投資は、2ヵ月連続のマイナスとなった。

1 新設住宅着工戸数(8月)



結果概要

分譲住宅は前年同月と同水準、貸家で増加したものの、持家で減少し、全体では2ヵ月ぶりのマイナスとなった。

＜全体＞

- ・182戸。前年同月比▲0.5%。
- ・2ヵ月ぶりのマイナス。

	R7/3	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8
着工戸数	342	94	125	185	266	182
前年同月比	74.5	▲39.4	▲6.7	▲3.1	63.2	▲0.5

＜参考＞

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
着工戸数	3,234	3,412	2,907	2,688	2,396	2,110

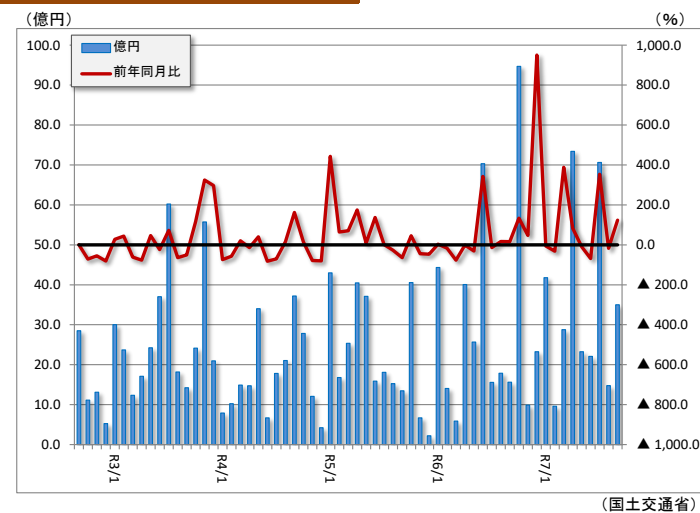
指標解説

・床面積10m²以上の住宅(持家、貸家、給与住宅、分譲住宅)の着工数。

・住宅は多くの設備や部品が使われるため、関連産業の裾野が広く、景気の影響を受けやすい。

・景気動向指数の先行指標の系列に採用されることが多い。

2 用途別着工建築物工事代金(9月)



結果概要

「製造業」、「電気・ガス等」などで減少したものの、「卸・小売」、「医療・福祉」などで増加し、全体では2ヵ月ぶりのプラスとなった。

＜全体＞

- ・35億円。前年同月比+123.9%。
- ・2ヵ月ぶりのプラス。

	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8	R7/9
工事金額	73.4	23.2	22.1	70.6	14.8	35.0
前年同月比	83.1	▲9.4	▲68.6	353.5	▲17.3	123.9

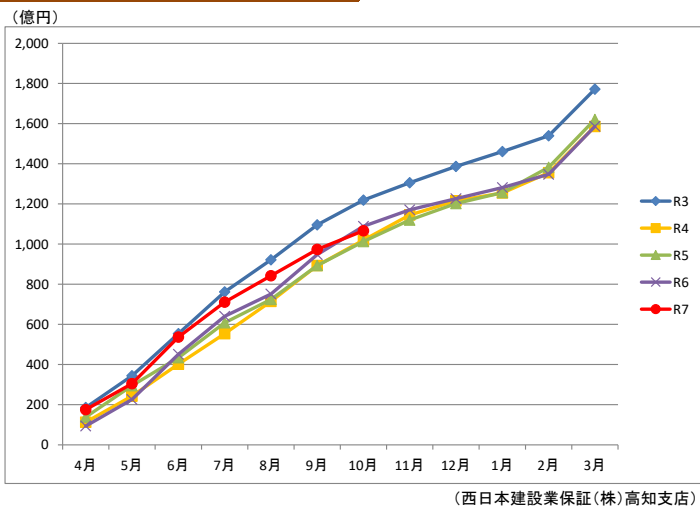
指標解説

・工事に着手した新築、増築又は改築に係る床面積10m²以上の産業(製造業、卸売小売業など)の用に供される建築物の工事金額。

・民間企業を中心とした建築投資の状況を知ることができる。

3 公共工事前払保証請負金額(10月)

単月では、国、県、市町村、その他(独立行政法人等)ともにマイナスとなり、全体では2ヵ月連続のマイナスとなった。累計では、県、市町村でプラスとなったが、国、その他(独立行政法人等)でマイナスとなった。



結果概要

＜単月＞

- ・93億円。前年同月比▲34.3%。
- ・2ヵ月連続のマイナス。

＜累計＞

- ・1,067億円。前年同月比▲2.1%。
- ・7ヵ月ぶりのマイナス。

	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8	R7/9	R7/10
単月	130	232	174	132	131	93
前年同月比	▲2.2	3.0	▲8.3	19.4	▲33.4	▲34.3
累計	305	537	711	843	974	1,067
前年同月比	35.0	19.1	11.0	12.2	2.8	▲2.1

H28年度1,746億円 H29年度1,578億円 H30年度1,521億円
R元年度1,780億円 R2年度1,713億円 R3年度1,772億円
R4年度1,586億円 R5年度1,621億円 R6年度1,348億円

指標解説

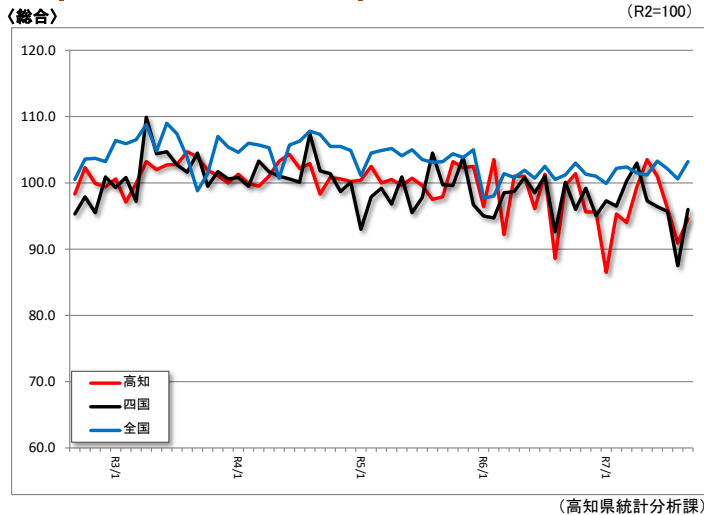
・西日本建設業保証(株)高知支店の保証により、前払金が支払われた公共工事の請負金額。

・高知県の公共工事に対する保証対象の請負金額のシェアは、70%程度と推定されている。

生産

・製造業の生産は、4ヵ月ぶりの前月比プラスとなった。

1 鉱工業生産指数（9月）



結果概要

前月比では、高知、四国、全国ともにプラスとなった。
「電気機械工業」、「金属製品工業」などで前月を上回ったものの、「電気機械工業」、「繊維工業」などで前月を下回った。
・季節調整済指数は94.6。前月比+4.1%。
・原指数は90.0。前年同月比▲5.6%。

(R2=100)

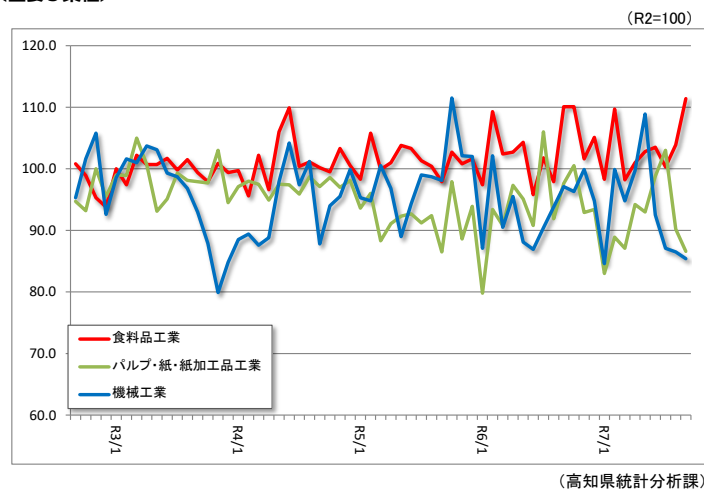
	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8	R7/9
高知県	99.4	103.5	101.0	96.1	90.9	94.6
四国	103.0	97.3	96.4	95.7	87.5	96.0
全国	101.5	101.2	103.3	102.1	100.6	103.2

※ 四国の最新月は速報値。
※ 年間補正（前年の指数の再計算）により、従来の公表値とは異なる場合があります。

指標解説

- ・鉱業、製造業に属する企業の生産活動状況を示すものとして作成されている。
- ・速報性があり、景況感を測る指標としても利用されることがある。
- ・景気動向指数の「一致指数」の系列に採用されている。

〈主要3業種〉



結果概要

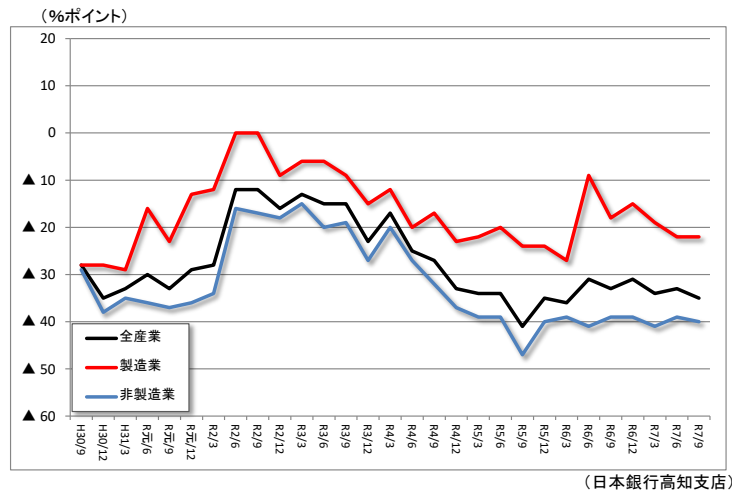
前月比では、「機械工業」、「パルプ・紙・紙加工品工業」はマイナスとなったが、「食料品工業」はプラスとなった。

- ・機械工業の季節調整済指数は85.4
前月比▲1.3%（原指数）前年同月比▲12.7%
- ・パルプ・紙・紙加工品工業の季節調整済指数は86.6
前月比▲4.0%（原指数）前年同月比▲11.9%
- ・食料品工業の季節調整済指数は111.4
前月比+7.2%（原指数）前年同月比+1.0%

雇用・所得

- ・雇用人員判断D.I.は、前回比▲2ポイントとなった。
- ・有効求人倍率(季調値)は、1.09倍と前月を上回った。
- ・有効求人数(原数値)は、28ヵ月連続のマイナスとなった。
- ・現金給与総額指数(名目)は、3ヵ月連続のマイナスとなった。

1 雇用人員判断D.I. (9月)



結果概要

<全体>

- ・▲35ポイント。前回比▲2.0ポイント。

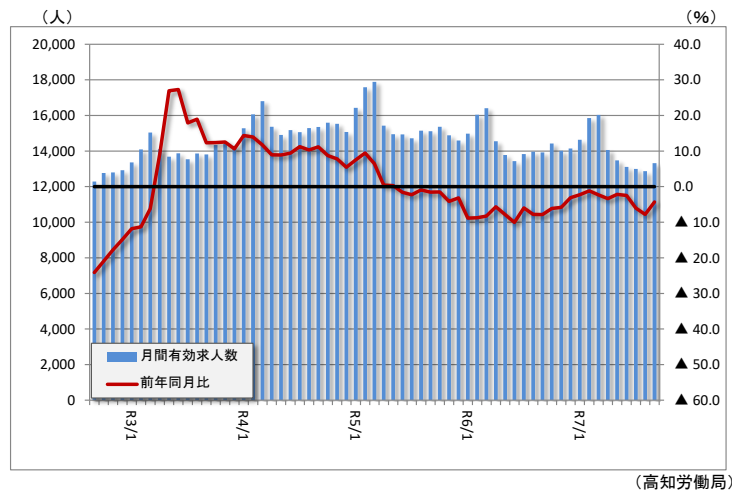
	R6/6	R6/9	R6/12	R7/3	R7/6	R7/9
全産業	▲31	▲33	▲31	▲34	▲33	▲35
前回比	5	▲2	2	▲3	1	▲2
製造業	▲9	▲18	▲15	▲19	▲22	▲22
非製造業	▲41	▲39	▲39	▲41	▲39	▲40

指標解説

企業の雇用人員の過不足についてのD.I。
※D.I.(Diffusion Index)・・・アンケート調査などに基づく統計において、調査結果を分かりやすく表す一般的な指標のひとつ。雇用人員判断D.I.は、雇用人員が「過剰」と回答した割合から「不足」と回答した割合を引いて算出。

2 求人数 (9月)

<有効求人数(原数値)>



結果概要

<全体>

- ・13,324人。前年同月比▲4.3%。
- ・28ヵ月連続のマイナス。

	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8	R7/9
有効求人数	14,059	13,473	13,106	13,000	12,873	13,324
前年同月比	▲3.4	▲2.2	▲2.5	▲6.0	▲7.8	▲4.3

<参考>

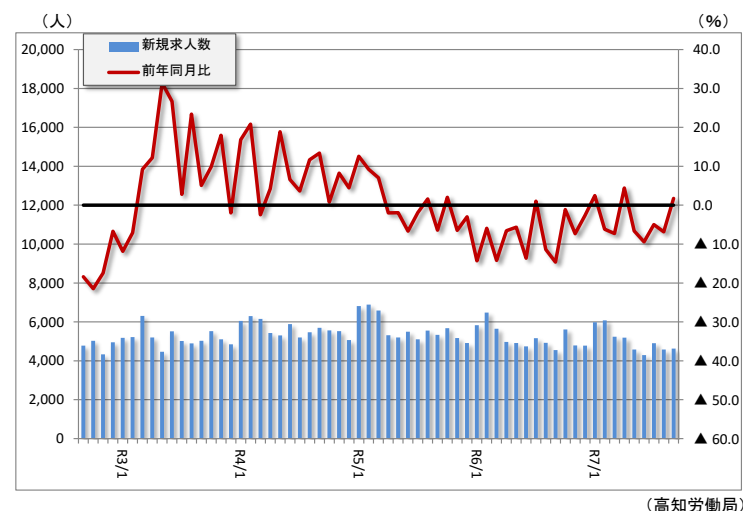
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
有効求人数	15,852	12,584	14,505	15,769	15,214	14,383

※年度の数値は月平均。

指標解説

・公共職業安定所(ハローワーク)が扱う「前月から繰越された求人数」と当月の「新規求人数」の合計数。

<新規求人数(学卒除きパートタイム含む、原数値)>



結果概要

「公務、その他」、「金融業、保険業」などで減少したものの、「学術研究、専門・技術サービス業」、「サービス業」などで増加した。

<全体>

- ・4,631人。前年同月比+1.8%。
- ・5ヵ月ぶりのプラス。

	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8	R7/9
新規求人数	5,187	4,584	4,297	4,900	4,584	4,631
前年同月比	4.4	▲6.6	▲9.4	▲5.0	▲6.8	1.8

<参考>

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
新規求人数	5,800	4,752	5,342	5,784	5,476	5,144

※年度の数値は月平均。

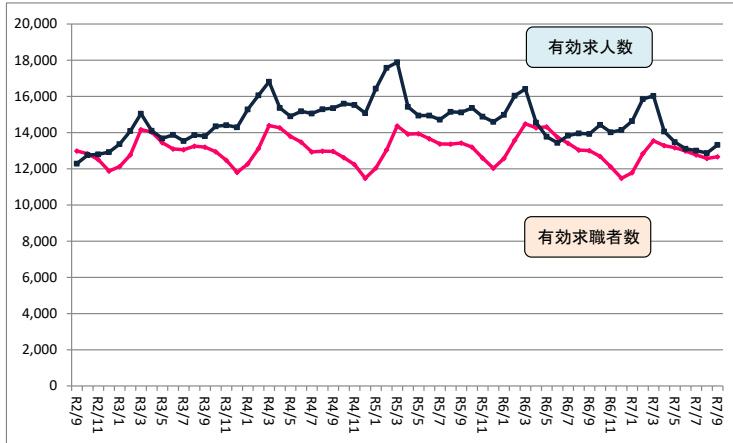
指標解説

・公共職業安定所(ハローワーク)が扱うその月のうちに新たに受けた求人数(採用予定人員)。

・景気動向指数の「先行指数」の系列に採用されている。

[参考] <有効求人数と有効求職者数の推移（原数値）>

(人)



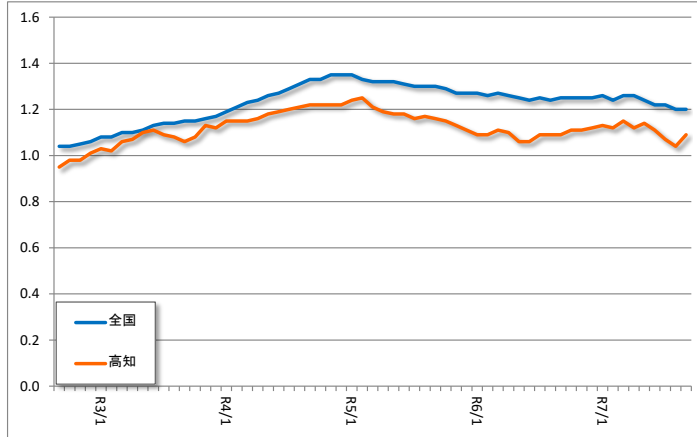
(高知労働局)

結果概要

	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8	R7/9
有効求職者数	13,284	13,165	12,987	12,765	12,572	12,663
有効求人数	14,059	13,473	13,106	13,000	12,873	13,324

3 有効求人倍率（季調値）（9月）

(倍)



(高知労働局)

結果概要

- <全体>
- ・1.09倍。
- ・前月差+0.05ポイント。

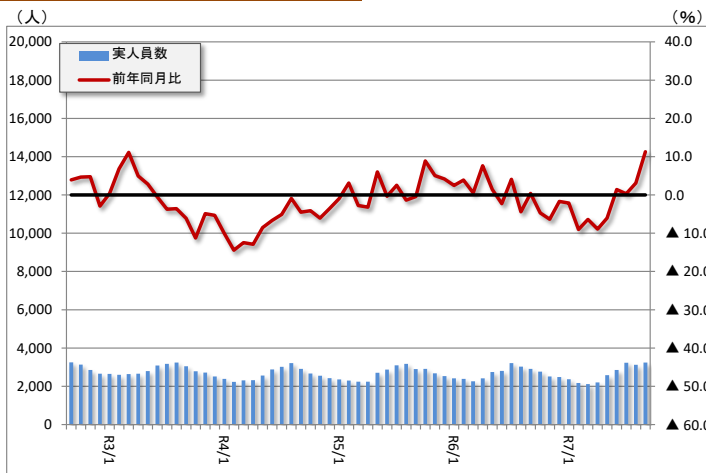
	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8	R7/9
高知県	1.12	1.14	1.11	1.07	1.04	1.09
全国	1.26	1.24	1.22	1.22	1.20	1.20

※令和6年12月以前の数値は、新季節指数により改定されています。

指標解説

- ・前月から繰越された数に新規の人数を加えた有効求職者数に対する有効求人数の割合で、求職者1人当たり何件の求人があるかを示すもの。
- ・一般に倍率が上昇しているときは、景気がよくなっていると言われている。
- ・景気動向指数の「一致指数」の系列に採用されている。

4 雇用保険受給者実人員（9月）



(高知労働局)

結果概要

- <全体>
- ・3,243人。前年同月比+11.3%。
- ・4ヵ月連続のプラス。

	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8	R7/9
受給者実人員	2,200	2,584	2,849	3,227	3,126	3,243
前年同月比	▲ 8.9	▲ 6.0	1.4	0.3	3.1	11.3

<参考>

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
受給者実人員	2,854	2,901	2,746	2,621	2,681	2,630

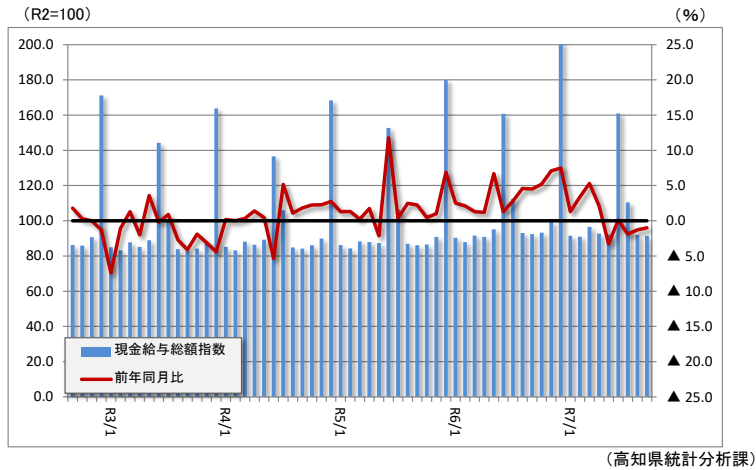
※年度の数値は月平均。

指標解説

- ・失業給付を実際に受けた受給資格者の実数で、景気が良くなれば減少する傾向にある。
- ・景気動向指数の「遅行指数」の系列に採用されることが多い。

※毎月勤労統計
従業者数5人以上の事業所を無作為に抽出して雇用、給与、労働時間の毎月の変動を調べる調査。

<現金給与総額指数（名目）>



結果概要

<全体>
・91.5。前年同月比▲1.0%。
・3カ月連続のマイナス。

	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8	R7/9
現金給与	92.7	92.1	160.9	110.5	91.9	91.5
前年同月比	2.1	▲3.3	0.1	▲1.9	▲1.3	▲1.0

※ 最新月は速報値。

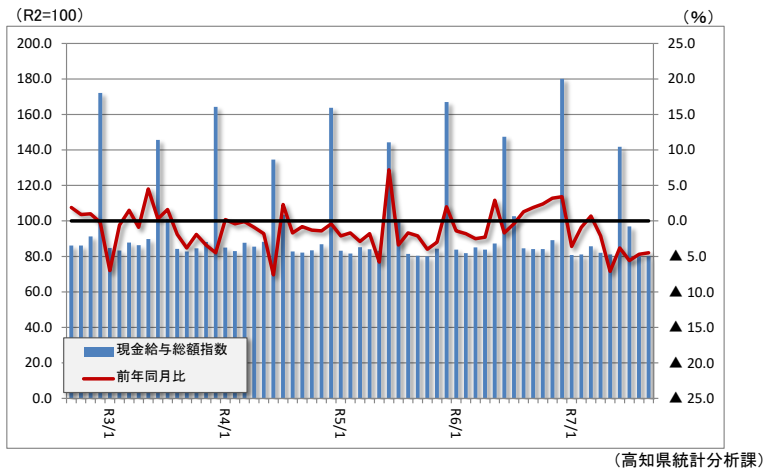
指標解説

・所得税、社会保険料、組合費等を差し引く前の総額。

※現金給与総額： きまって支給する給与（所定内給与、時間外手当）
＋特別に支払われた給与（ボーナス、精勤手当等）

・家計における消費の元手資金となる。

<現金給与総額指数（実質）>



結果概要

「不動産業、物品賃貸業」、「教育、学習支援業」などで前年を上回ったものの、「生活関連サービス業、娯楽業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」などで前年を下回り、全体では3カ月連続のマイナスとなった。

<全体>
・80.3。前年同月比▲4.5%。
・6カ月連続のマイナス。

	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8	R7/9
現金給与総額指数	82.0	81.1	141.8	96.9	80.5	80.3
前年同月比	▲2.1	▲7.1	▲3.8	▲5.6	▲4.7	▲4.5

※ 最新月は速報値。

物 価

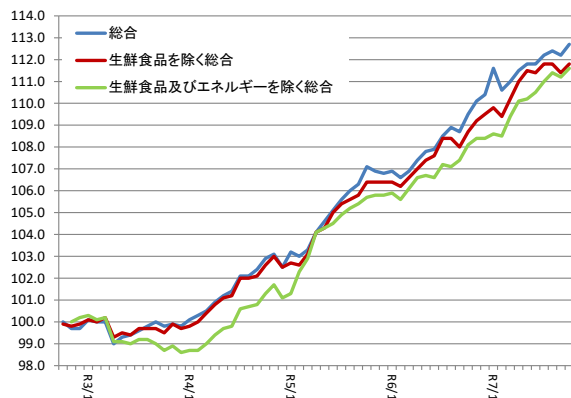
・総合、生鮮食品を除く総合、生鮮食品及びエネルギーを除く総合ともにプラスとなった。

1 消費者物価指数（10月）

＜高知県＞（高知市消費者物価指数） 総合、生鮮食品を除く総合、生鮮食品及びエネルギーを除く総合ともにプラスとなった。

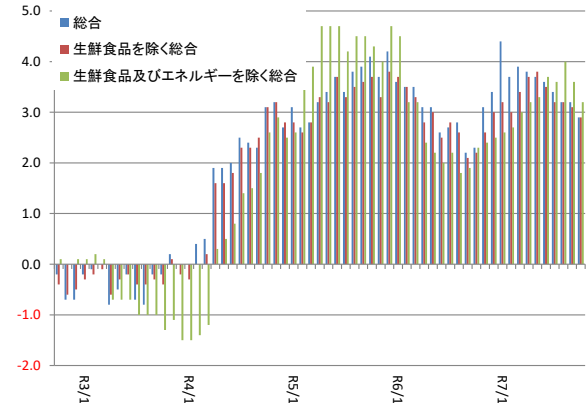
指数の推移

(R2=100)



前年同月比の推移

(%)



(高知県統計分析課)

結果概要

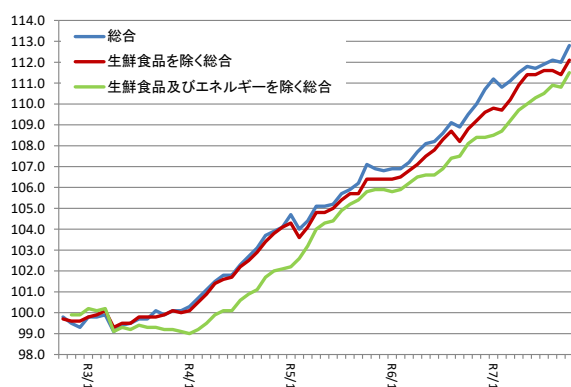
令和7年 (10月)	指数	前年同月比
総合	112.7	+2.9 % (45カ月連続のプラス)
生鮮食品を除く総合	111.8	+2.9 % (44カ月連続のプラス)
生鮮食品及びエネルギーを除く総合	111.6	+3.2 % (43カ月連続のプラス)

＜全国＞

総合、生鮮食品を除く総合、生鮮食品及びエネルギーを除く総合ともにプラスとなった。

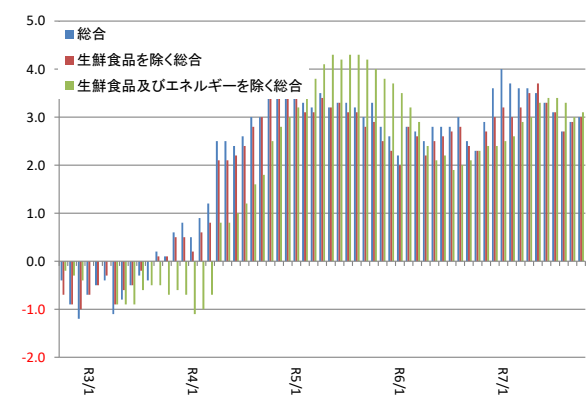
指数の推移

(R2=100)



前年同月比の推移

(%)



(総務省統計局)

結果概要

令和7年 (10月)	指数	前年同月比
総合	112.8	+3.0 % (50カ月連続のプラス)
生鮮食品を除く総合	112.1	+3.0 % (50カ月連続のプラス)
生鮮食品及びエネルギーを除く総合	111.5	+3.1 % (43カ月連続のプラス)

指標解説

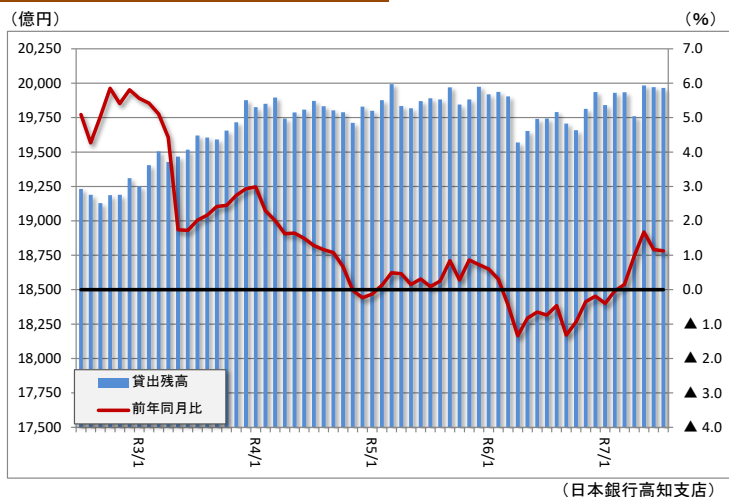
消費者物価指数

- ・総務省の小売物価統計調査をもとに作成される代表的な物価指数の1つ。
- ・消費者が購入する商品やサービス価格を総合した物価指数で、特に天候などの影響を受けやすい「生鮮食品を除く」部分が注目される。
- ・景気動向指数の「運行指数」の系列に採用されている。
- ・令和3年7月分の公表において、指数計算の基準となる年(基準年)が平成27年から令和2年に改定された。

金融

- 国内銀行の県内貸出残高は、プラスとなった。
- 貸出約定平均金利は、前月差プラスとなった。

1 国内銀行の県内貸出残高（7月）



結果概要

<全体>

- 1兆9,965億円。前年同月比+1.1%。
- 5ヵ月連続のプラス。

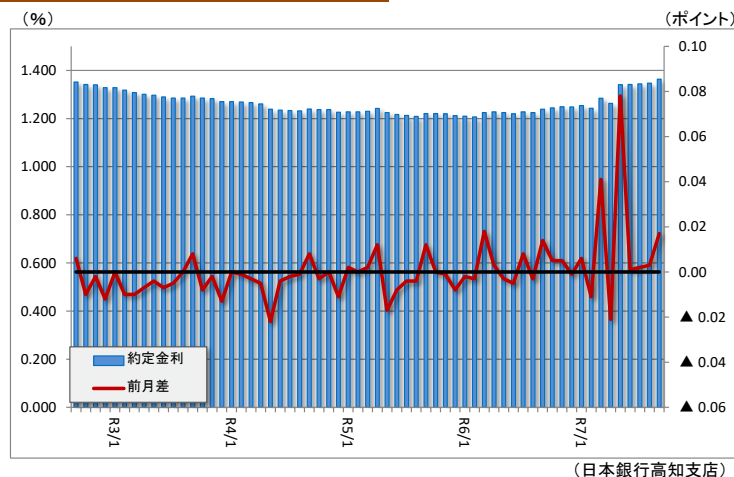
	R7/2	R7/3	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7
貸出金	19,931	19,934	19,761	19,983	19,971	19,965
前年同月比	▲ 0.0	0.2	1.0	1.7	1.2	1.1

指標解説

・高知県内に店舗を置く国内銀行（ゆうちょ銀行を除く）、信用金庫、信用組合、農業協同組合、漁業協同組合およびその他の金融機関の貸出金の合計。ただし、国内銀行以外の金融機関について、高知県外に本店を置く金融機関は集計対象に含めない。

・景気動向指数の「先行指数」の系列に採用されることが多い。

2 貸出約定平均金利（9月）



結果概要

<全体>

- 1.364%。前月差+0.017ポイント。
- 5ヵ月連続のプラス。

	R7/4	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8	R7/9
約定金利	1.263	1.341	1.342	1.344	1.347	1.364
前月差	▲ 0.021	0.078	0.001	0.002	0.003	0.017

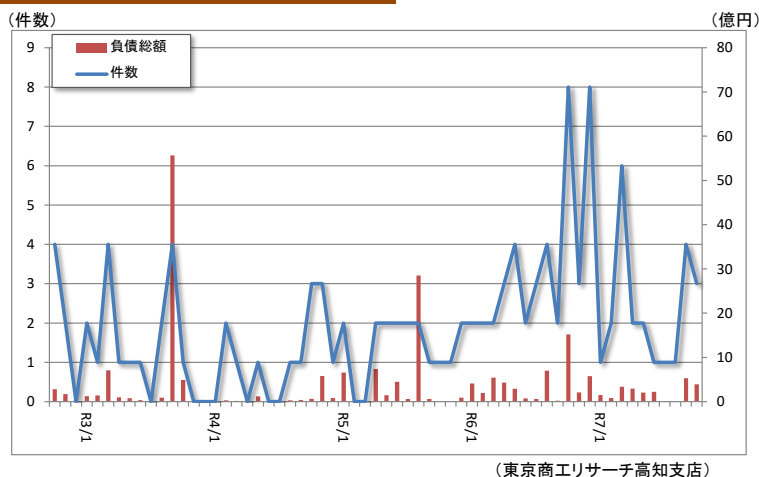
指標解説

・高知県内に本店を置く国内銀行（ゆうちょ銀行を除く）、信用金庫の県内店舗分の貸出平均金利（ストックベース）を貸出金残高で加重平均したもの。

倒産

- 企業倒産は、前月比で件数、負債総額ともに減少となった。

1 企業倒産状況（10月）



結果概要

<10月>

- 3件。
- 負債総額3億9,400万円。
- 前月比ベースの件数は1件減。
- 負債総額は1億3,600万円減。

<9月>

- 4件。
- 負債総額5億3,000万円。
- 前月比ベースの件数は3件増。
- 負債総額は5億2,000万円増。

	R7/5	R7/6	R7/7	R7/8	R7/9	R7/10
件数	2	1	1	1	4	3
負債総額	2.04	2.20	0.10	0.10	5.30	3.94

指標解説

・法的整理、任意整理の合計値（負債総額1千万円以上）。

・景気動向指数の「先行指数」の系列に採用されることが多い。